

## 第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクターの抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

### 1. 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和 4 年 3 月 29 日  
作成担当部署 東金市経済環境部農政課

### 2. 第三セクターの概要

法人名 東金元気づくり株式会社  
代表者名 代表取締役 井上一雄  
所在地 千葉県東金市田間 1300 番地 3  
設立年月日 平成 25 年 10 月 9 日  
資本金 6,250 千円【東金市の出資額（出資割合）5,000 千円（80%）】  
業務内容 道の駅みのりの郷東金の管理運営（直売所、圃場、レストラン、加工場）

### 3. 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

東金元気づくり株式会社は「東金市を元気にする活動を行う」「東金市民の心豊かな生活作りを支援する」「オール東金のための器となる」を経営方針として平成 25 年 10 月 9 日に設立され、平成 26 年 1 月 1 日から「みのりの郷東金」の指定管理者として、施設の管理・運営を行っています。同施設は平成 28 年度に道の駅の認定を受けたことにより、同社はこれまで以上に農業・商業・工業者が有機的なつながりを持ち、個性豊かな賑わいの場として、地域の活性化・情報発信の役割を担っています。

財務状況は、平成 30 年度に負債が資産を上回ったことに加え、純損失も発生したことで債務超過となりました。近年の売上高は右肩上がりであり、令和 2 年度は純利益に転じましたが、累積債務額が大きいため債務超過の状態が続いています。部門別の経営状況として、直売所・圃場は比較的良好であるものの、レストランについては売上が年々減少しており、損失額が大きくなっています。また、6 次産業を推進するため、平成 30 年度に設備投資を行った加工場についても、売上は伸び悩んでおり、毎年度損失が発生している状況です。

市の関与としては、毎月定例会にて密に情報共有を図り、詳細な経営状況を把握した上で、十分な協議を行うことで、経営改善に努めています。なお、現在、市から損失補償や債務保証等はありません。

#### 4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

当施設は、東金市をはじめ、近隣市町村の農産物の活性化及び情報発信の場として、公共・公益性の高い事業です。また、市民の生活基盤及び交流拠点として、推定値ではありますが近年では年間延べ90万人程度の来場者があること、経済循環においても毎年2億円超の売上実績があることから、当施設を設置した行政の目的を達成しており事業そのものの意義は有していると考えています。採算性の判断については、債務超過の状態であるため「第三セクター等の経営健全化等に関する指針第3」から無いものと判断します。今後の事業手法の選択として、令和2年度は経常損益が大きく改善していることから、大幅な経営改革を行うことを前提に、引き続き第三セクターでの実施を採用するものです。

なお、費用対効果についても交流人口や経済の観点から、確保されていると判断します。

#### 5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

比較的良好な部門である直売所、圃場については、売上微増を目標に集客力や客単価の向上を目指します。支出に関しても、引き続き固定費の見直しを行い、利益率の向上を図っていきます。

経営を圧迫しているレストラン及び加工場については、新規設備導入などの投資による経営改善を避け、運営方法や原価率等の経費の見直しによってコストの効率化を図るなどした改善に重点を置くこととします。特にレストランは平成30年度をピークに売上が減少傾向に転じた原因を明確にすることで、誘客による売上増も目指し速やかに営業赤字の解消を図ります。なお、営業赤字の解消が5年以内に見込めない場合や、経営圧迫の影響が大きくなる場合は、施設の廃止や事業の民間委託等による赤字部門の切り離しも視野に入れることとします。

加工場に関しては、6次産業の振興施設でもあることから、公共・公益性が高く施設の廃止は検討しません。しかし、施設規模からも速やかな黒字転換は難しいと考えることから、指定管理料の範囲で運営できる事業内容に見直しを行い、損失の割合を縮小することに努めます。

市の関与としては、赤字補てんを目的とする財政的支出は行わないことを前提とし、引き続き密に情報共有を図り、経営改善に向け指導を行っていきます。

(参考)

6. 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額 (千円)		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
	資産総額	95,283	80,649	88,011
	(うち現預金)	69,853	53,679	64,752
	(うち売上債権)	5,837	10,551	9,569
	(うち棚卸資産)	7,031	7,750	6,533
	負債総額	95,876	88,854	93,723
	(うち東金市からの借入金)	0	0	0
	純資産額	▲593	▲8,205	▲5,712

損益計算書から	項目	金額 (千円)		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
	経常収益	259,435	255,440	260,576
	経常費用	267,716	263,076	261,262
	経常損益	▲8,281	▲7,636	▲686
	経常外損益	90	93	3,247
	当期純損益	▲8,260	▲7,613	2,493